



二十歳を迎えて

→ Toward twenty years old



佐々木冬星さん
(津山町・石貝)

県外の大学で勉強をしています。知らない場所での生活は、寂しくなることもあります。今日は、久しぶりに地元の仲間と会えてうれしかったです。仲間や家族を、大切にできる大人になりたいと思います。

石巻市内の専門学校に通っています。専門学校に進学できたのも、両親が頑張ってくれているから。親孝行できる大人になりたいです。将来は看護師になり、病气やけがで苦しんでいる人を支えたいと思います。

鈴木愛彩さん
(追町・中江)



出会えたすべての人に感謝したい

渡邊康介さん
南方町苔野谷地上

私は、この20年間にさまざまなことに触れ、多くの人たちと出会うことができました。私は、中高とジュニアリーダーの活動を通して、ボランティア活動をしていました。今はジュニアリーダーを卒業し、「びいすかばんばにい」に所属しています。「ここで、子どもたちの地域活動の支援を続けているところです。」

この活動を通じて、自分の夢を見つめました。登米市を「子どもたちが笑顔で暮らせるまち」にすることを。現在は夢の実現に向けて、仕事とボランティア活動を両立しながら日々精進しています。感謝の言葉を伝えたいのは、愛情をたくさん注いでくれた「家族」です。これまで伝えることができなかった感謝の言葉を伝えます。「育ててくれてありがとう」です。最後に母へ。「俺を生んでくれてありがとう。お母さんの子どもで良かった。これからは、自分の夢をかなえることと、親孝行をしていきます。」

はたちの主張

新成人を代表し2人の「はたちの主張(要約)」を紹介します

どんな時も支えてくれたことに感謝

阿部未侑さん
米山町町吉田



私は登米市で生まれ、登米市で育ちました。幼い頃から家族や地域の人たちに見守られ、「こまで成長することができました。」わが家は、両親が共働きで核家族。両親が苦勞していたのは、悪天候時の学校への送迎です。両親には、仕事を休んでもらうなどずいぶん迷惑をかけました。しかし、職場の理解もあり、2人とも嫌な顔をせず、対応してくれたので、勉強に専念できました。

かぎっ子だった私が、一人で家にいる時は、地域の人たちが見守ってくれたので、不安や寂しさを感じることはなかったです。本当に恵まれた環境で育てられたと感じています。現在は、登米市の職員として働いています。地域に恩返ししたいという思いと、登米市の若者が活躍できるまちになるよう、しっかりと支援していきたいと思っています。どんな時も支えてくれた家族をはじめ、20年間私に関わった全ての人に、感謝の気持ちを述べたいと思います。ありがとう、ございました。

感謝は連鎖する

心からの「ありがとう」は、相手だけではなく周囲も笑顔にし、連鎖していきます。

新成人は、両親や支えてくれた人たちへの感謝の思いを口にしました。子どもから大人まで、職場でも、学校でも、「感謝の気持ち」を持つことが大切だと教えられる。それはなぜでしょうか。一人一人がこの気持ちをを持つことで、幸せにつながると思われ、かかって、大リーグのニューヨークヤンキースに所属した松井秀喜氏など、多くの著名人が座右の銘としている言葉があります。

「心が変われば、態度が変わる。態度が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。運命が変われば、人生が変わる。」これは、ヒンズー教の教えで「人生が変わる」までを分かりやすく示しています。人生を変えるためには、まず「心」を変える。それによって「態度」「行動」が変わり、最終的に「人生が変わる」という道筋です。スタートの心を変え「感謝」になります。つまり、幸せだから感謝するのではなく、感謝するから幸せが生まれるということです。感謝という言葉には「相手に何かしてもらったこと、ありがとう」といって心強く動き、それを言葉にして伝えること」という意味があります。感謝の気持ちを持つということは、相手に「ありがとう」を伝えるということ。心からの「ありがとう」は、相手だけではなく、周囲も笑顔にする連鎖するのです。一人一人の「ありがとう」は、周囲から地域へ。地域からまち全体へ。新成人が教えてくれた「ありがとう」は、幸せな登米市をつくりまします。



いつでも自分を信じてくれている

清野さくらさん
中田町新橋

現在は、看護師を目指し千葉県内の看護専門学校で勉強をしています。看護師を選んだのは、人の役に立てる職業に就きたいと思ったのがきっかけです。病气やけがだけでなく、心のケアもできる看護師になりたいと思います。専門学校受験の時に、精

神的につらい時期がありました。両親から「自分なりに頑張ればいいんだよ」と言われ、気持ちが楽になりました。私のことを信じてくれているからその一言だと感じました。今はまだ夢の途中。家族の信頼を裏切らないよう、努力していきたいと思っています。

それぞれの感謝のカタチ 新成人×家族

自分の力を信じて進みたい道へ

清野義幸さん



小さい頃は人見知り、いつも泣いてばかりでした。しかし、他人の気持ちが分かる子どもで、その場の空気を察して、声掛けや笑いを提供してくれました。また、料理の手伝いや家族の世話をするなど、気の利く優しい子です。娘には、親の私たちのほうが感謝し

ています。「看護師を目指す」と言われたときに、他人の役に立つ仕事をしたいのだと思いました。これまでの人生、家族以外にも多くの人たちが、娘を支えてくれました。支えられたことへの感謝を忘れることなく、夢に向かっていってほしいです。



貴重な経験が自信になりました

佐藤紀和子さん
中田町川面

熊谷先生との出会いは、迫桜高入学後、合唱部に入部したとき。顧問が熊谷先生でした。先生は、部員一人一人に寄り添った指導をしてくれました。高い声が出せなかったときに、できるまで練習に付きあってくれたことは、忘れられない思い出です。

2年後半、パートリーダーに指名されました。正直、自分に務まるか不安でしたが、任されたからにはやるしかありません。戸惑うこともありましたが、仲間の協力もあり、やり通すことができました。先生が、背中を押してくれたことに感謝しています。

部員の成長は何にも代え難い喜び

熊谷 聡さん
大崎市古川



入学当初の紀和子さんはシャイな女の子。他の部員と上手に接していけるか不安な様子でした。パートリーダーを選ぶ際、責任感のある彼女なら大丈夫と思い、任せることに。それから、周囲としっかり協力してパートをまとめてくれました。部活動の中で、お互い

を思いやり、感謝の気持ちを持つことを学んでくれたと思います。今回、成人式で実行委員を務めたとき聞きました。彼女の成長は、私にとっても何よりの喜び。迫桜の合唱部が自分をより良く変えていける場であったのなら、とてもうれしいことです。

それぞれの感謝のカタチ 新成人×恩師